



認定書

国住指第 1230 号
平成 19 年 8 月 8 日

クリオン株式会社

代表取締役社長 松平 孝治 様

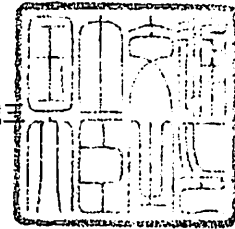
旭化成建材株式会社

代表取締役社長 小林 宏史 様

住友金属鉱山シボレックス株式会社

代表取締役社長 伊藤 敬 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項(同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第 2 条第八号並びに同法施行令第 108 条第一号及び第二号(外壁(耐力壁):各 30 分間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PC030BE-0882

2. 認定をした構造方法等の名称

仕上塗材塗ALCパネル張/木製軸組造外壁

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

仕上塗材塗ALCパネル張/木製軸組造外壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする。

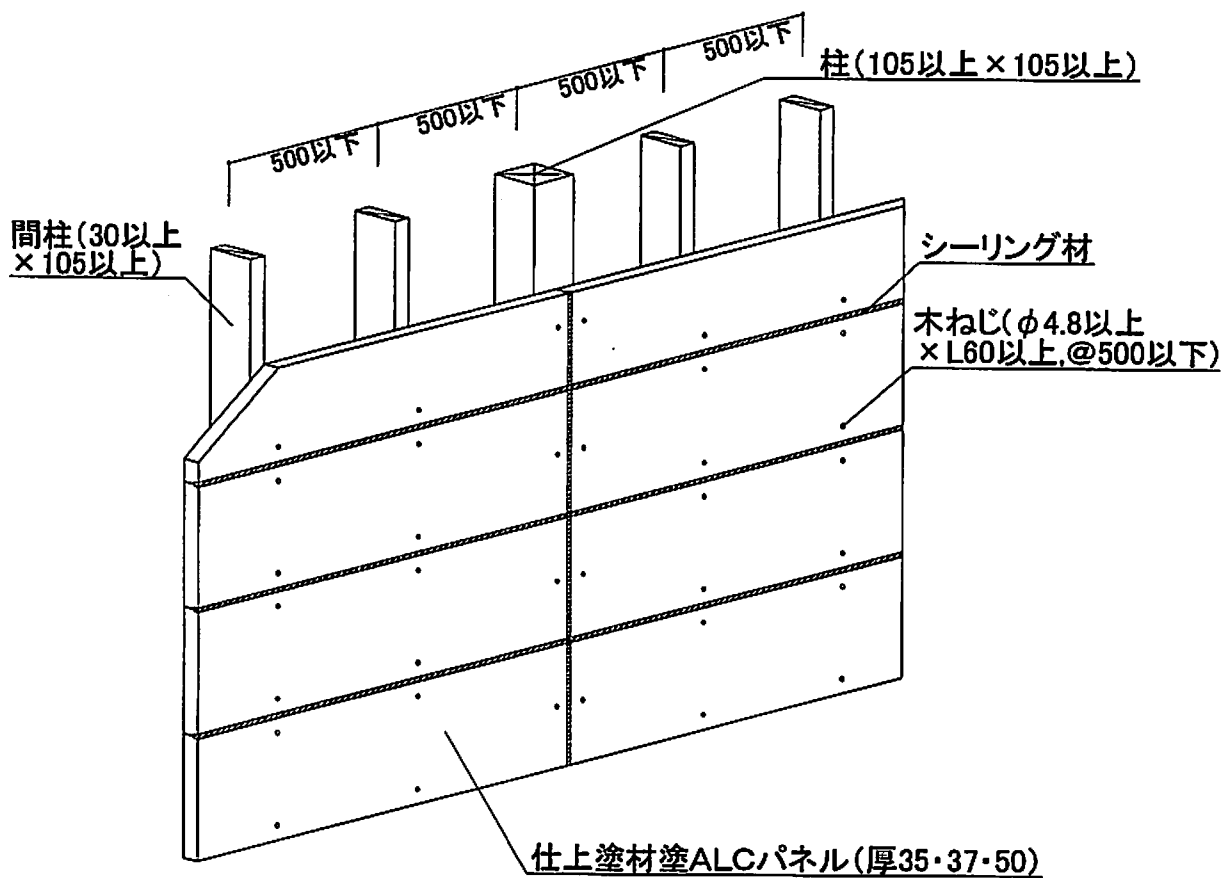
3. 材料構成等

項 目		製 品 仕 様 等
屋外側被覆材 (ALCパネルの表面に仕上塗材を施したもの。)	ALCパネル	規格 JIS A 5416 (軽量気泡コンクリートパネル) の薄形パネル 形状 平板 表面の形状 ①平滑、②平滑・溝加工、③凹凸加工、④凹凸・溝加工 厚さ (mm) 35・37・50±2 かさ比重 0.45 を超え 0.55 未満 (補強材を含まず) 幅 (mm) 最小：600、最大：610 長さ (mm) 最小：1,500、最大：3,000 補強材 種類 メタルラス (JIS A 5505)、鉄線 (JIS G 3532)、溶接金網 (JIS G 3551) 質量 (kg/m) 0.7 以上
	仕上塗材	規格 JIS A 6909 (建築用仕上塗材) 種類 薄付け仕上塗材： 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 厚付け仕上塗材： 外装セメント系厚付け仕上塗材、外装けい酸質系厚付け仕上塗材、外装合成樹脂エマルジョン系厚付け仕上塗材 複層仕上塗材： ポリマーセメント系複層仕上塗材、けい酸質系複層仕上塗材、合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材、防水形合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材、防水形合成樹脂溶液系複層仕上塗材 塗布量 (所要量) (kg/m ²) 1.5 以上 (合計) 有機質含有率 (%) 47 以下 (仕上塗材全体に含まれる有機質量の割合)
屋外側被覆の副構成材料	横胴縁 (ALCパネルを縦張りとする場合に使用する。)	種類 JAS に規定する針葉樹の造作用製材または下地用製材 寸法 (mm) 厚さ 12 以上、幅 30 以上 取付け間隔 (mm) 500 以下

項 目	製品仕様等
屋外側被覆の副構成材料	ねじ、くぎ ALCパネル留め付け用 φ4.8 mm以上×L60 mm以上の鋼製またはステンレス鋼製木ねじ 横胴縁留め付け用 φ2.75 mm以上×L50 mm以上の鉄丸くぎ
	シーリング材 種類 アクリル樹脂系、ポリウレタン系、変成シリコーン系 充填量 50g/m以上
	ALCパネル留め付け用ねじの補修材 種類 合成樹脂エマルジョン系パテ、セメント系補修材 充填量 0.1g 以上/凹み深さ 1 mm 当り
下地材	柱 種類 JAS に規定する構造用集成材または針葉樹の構造用製材 断面寸法 (mm) 105 以上×105 以上 取付け間隔 (mm) 500 以下 (柱と間柱との間隔)
	間柱 種類 JAS に規定する針葉樹の造作用製材または下地用製材 断面寸法 (mm) 30 以上×105 以上 取付け間隔 (mm) 500 以下
施工方法	下地組み 土台に柱と間柱を取付ける。この時の柱と間柱との間隔及び間柱相互の間隔は 500 mm 以下とする。
	横胴縁 ALCパネルを縦張りとする場合は、横胴縁を柱または間柱と直交する方向に 500 mm 以下の間隔で配置する。ただし、ALCパネルの短辺方向の目地部には、必ず横胴縁を 2 本配置する。横胴縁は、柱または間柱にφ2.75 mm 以上×L50 mm 以上の鉄丸くぎを用いて 500 mm 以下の間隔で留め付ける。
	ALCパネル 横張り仕様のALCパネルは、φ4.8 mm 以上×L60 mm 以上の鋼製木ねじ等を用いて柱または間柱に留め付ける。縦張り仕様のALCパネルは、上記の鋼製木ねじ等を用いて横胴縁に留め付ける。ALCパネルの長辺方向周辺部の留め付け間隔は 500 mm 以下とし、短辺方向周辺部は上記鋼製木ねじ等 1 本以上で留め付ける。鋼製木ねじ等は、その頭部がALCパネル表面より 7~10 mm 凹むようにねじ込み、この凹部には、合成樹脂エマルジョン系パテ等を隙間なく充填する。ALCパネル相互の目地部にはシーリング材を充填する。
	ALCパネルの表面仕上げ 仕上塗材の塗布量(所要量)は、合計で 1.5kg/m ² 以上とし、仕上塗材全体に含まれる有機質量の割合は、47%以下となるようにする。

4. 構造説明図
(1) 横張り仕様
(1)-1 透視図

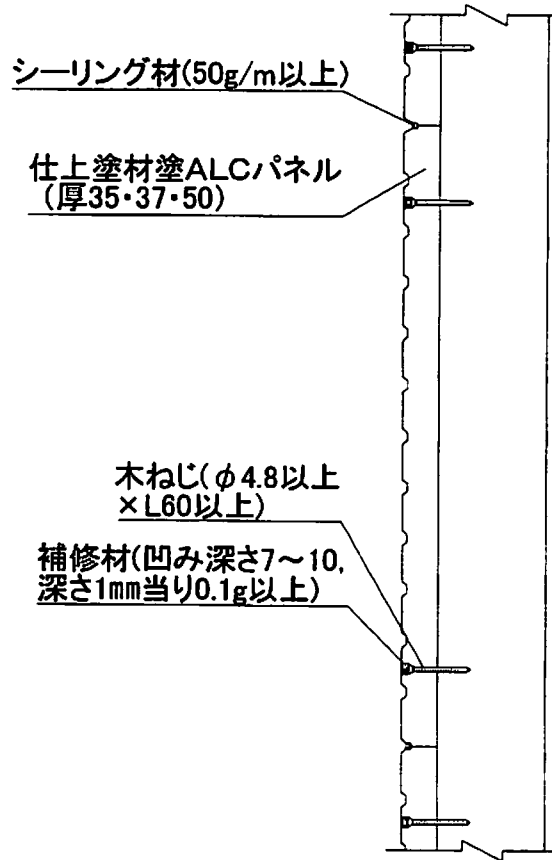
単位(mm)



(1)-2 断面詳細図

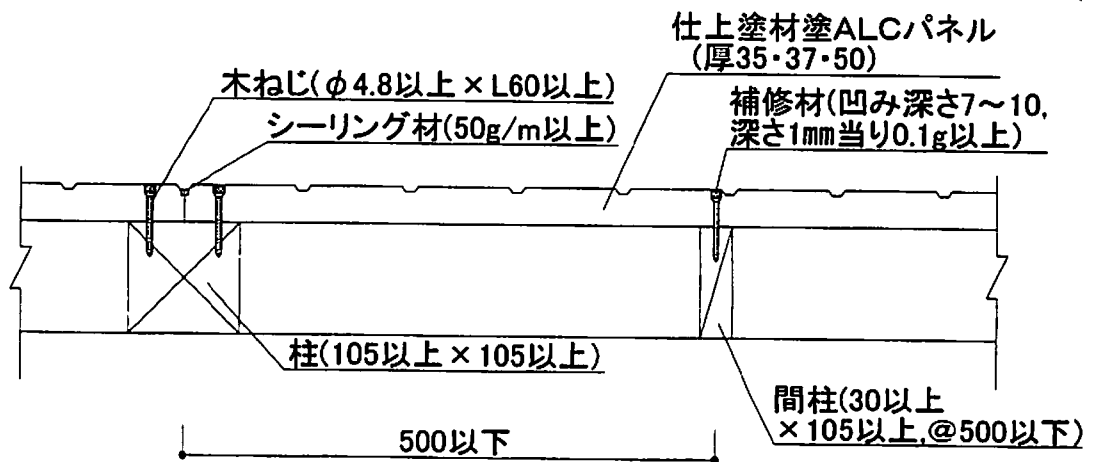
① 鉛直断面詳細図

単位(mm)



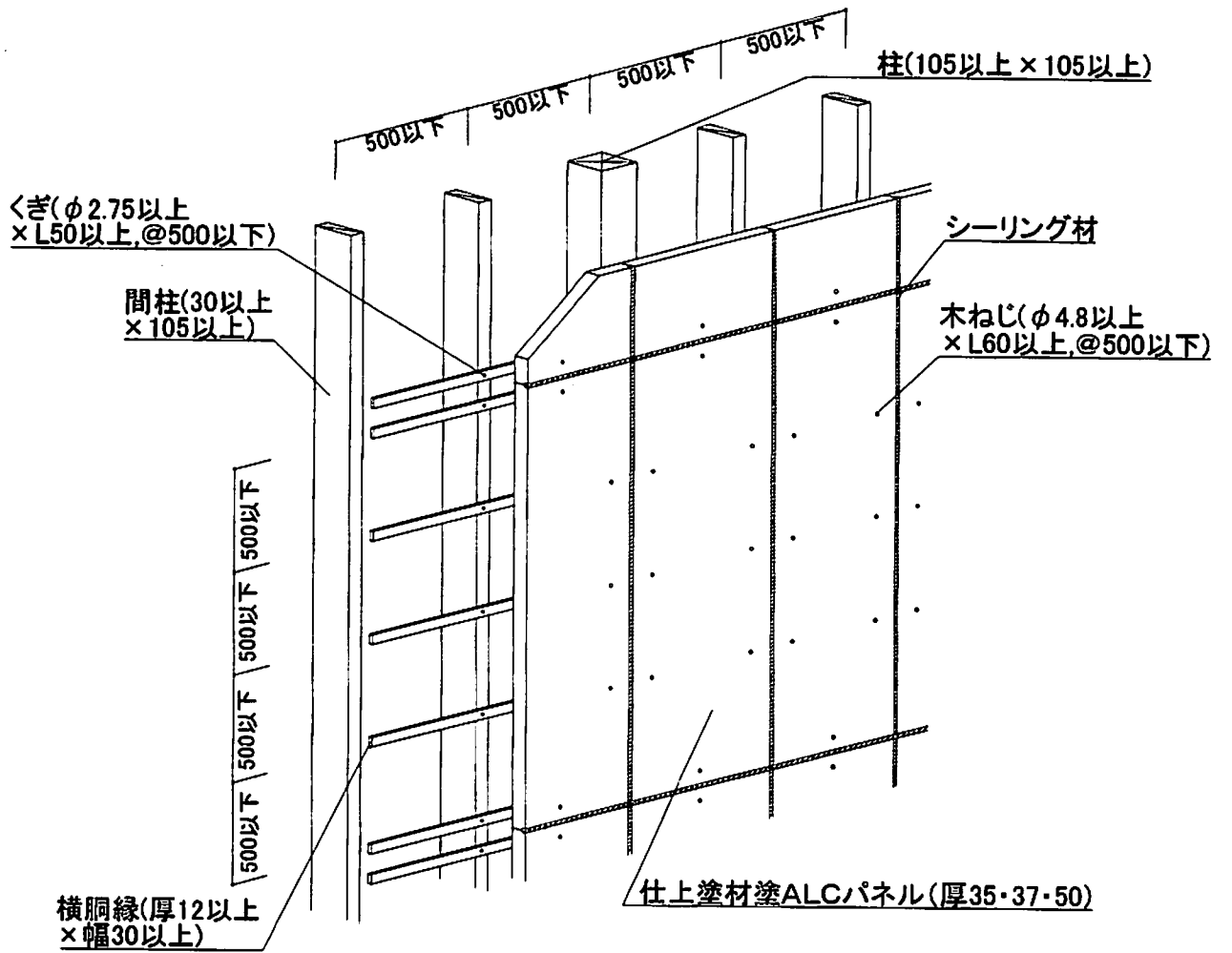
② 水平断面詳細図

単位(mm)



(2) 縦張り仕様
 (2)-1 透視図

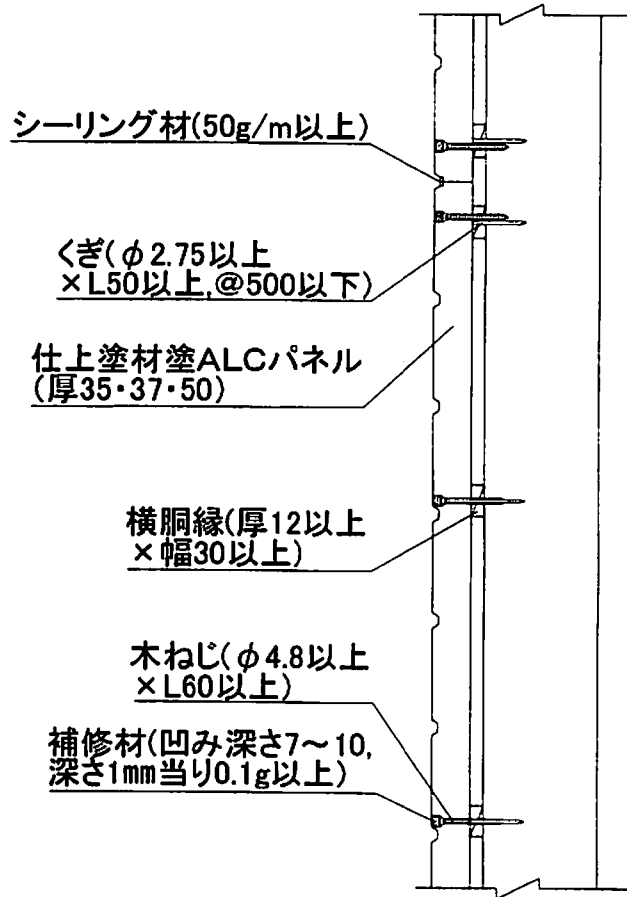
単位(mm)



(2) -2 断面詳細図

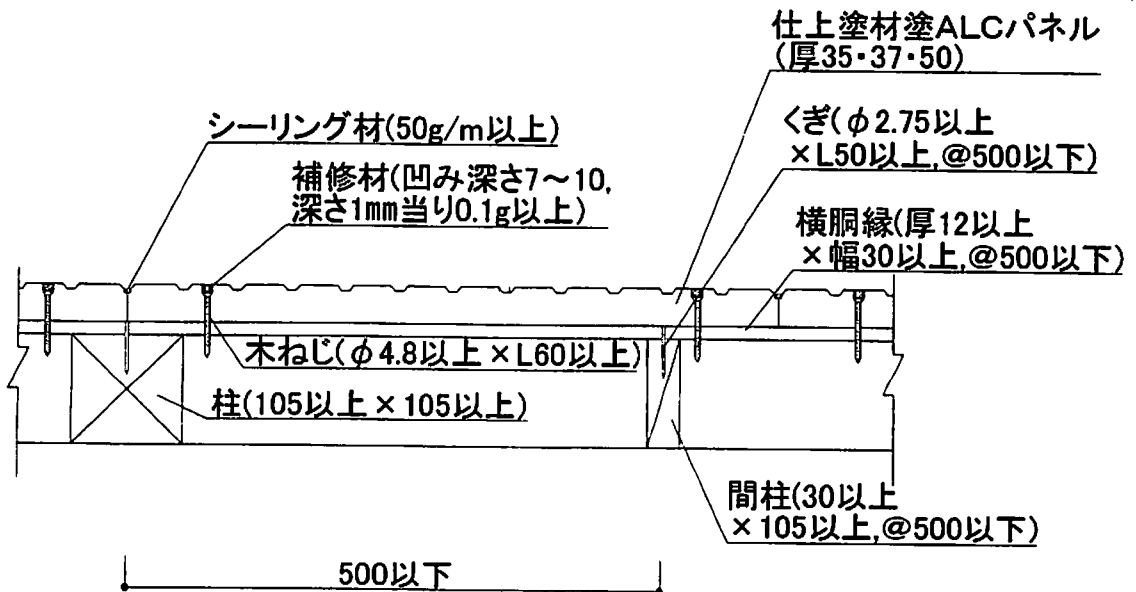
① 鉛直断面詳細図

単位(mm)



② 水平断面詳細図

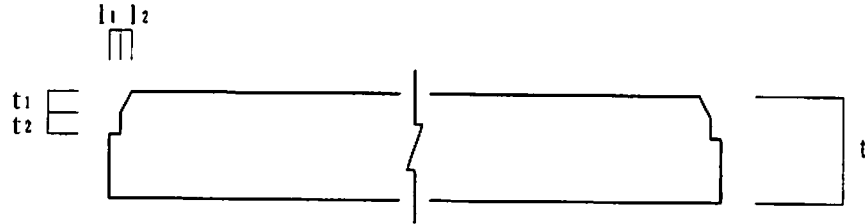
単位(mm)



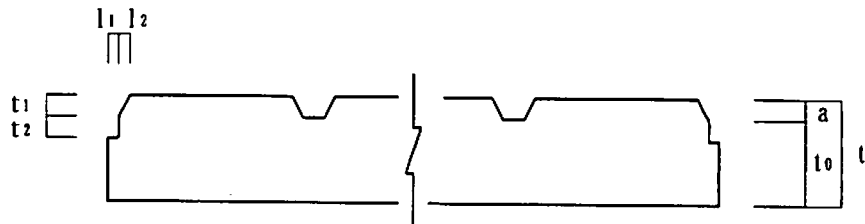
(3) ALCパネルの形状及び寸法

(3)-1 形状

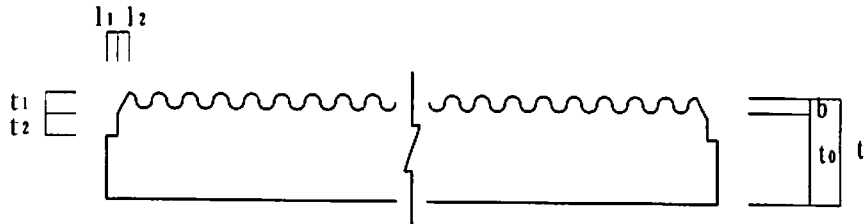
① 平滑



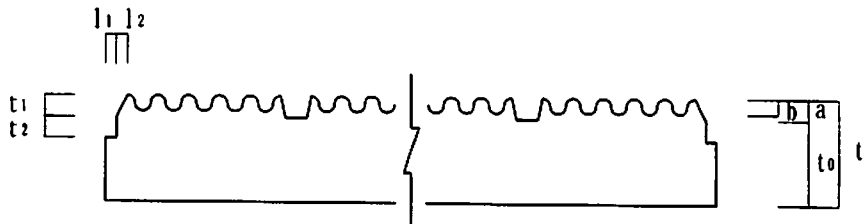
② 平滑・溝加工



③ 凹凸加工



④ 凹凸・溝加工



(3)-2 各部の寸法等

形 状		平滑	溝加工	凹凸加工	凹凸・溝加工
厚さ：t (mm)		35・37・50±2			
端部の切欠き部の寸法※1	t ₁ (mm)	7±2			
	t ₂ (mm)	7±2			
	l ₁ (mm)	3.5±2			
	l ₂ (mm)	3.5±2			
溝部の深さ：a (mm) ※1		—	7以下	—	7以下
凹凸加工の凹部深さ：b (mm) ※1		—		7以下	
最小厚さ：t ₀ (mm)		—	30以上		
溝部または凹凸加工の凹部の容積欠損率(%) ※2		—	4.73以下		

※1 被覆材裏面から 37 mm以下の厚さの部分における寸法。

※2 被覆材全体積(端部切欠き部を除く)に対する被覆材裏面から 35 mm以下の溝部または凹凸加工の凹部の欠損容積の割合。

5. 施工方法

(1) 下地組み等

① 下地組み

土台に柱と間柱を取付ける。この時の柱と間柱との間隔及び間柱相互の間隔は 500 mm 以下とする。

(2) 横胴縁の取付け

A L C パネルを縦張りとする場合は、横胴縁を柱または間柱と直交する方向に 500 mm 以下の間隔で配置する。ただし、A L C パネルの短辺方向の目地部には、必ず横胴縁を 2 本配置する。横胴縁は、柱または間柱に $\phi 2.75$ mm 以上 $\times L50$ mm 以上の鉄丸くぎを用いて 500 mm 以下の間隔で留め付ける。

(3) A L C パネルの取付け

横張り仕様の A L C パネルは、 $\phi 4.8$ mm 以上 $\times L60$ mm 以上の鋼製木ねじ等を用いて柱または間柱に留め付ける。縦張り仕様の A L C パネルは、上記の鋼製木ねじ等を用いて横胴縁に留め付ける。

A L C パネルの長辺方向周辺部の留め付け間隔は 500 mm 以下とし、短辺方向周辺部は上記鋼製木ねじ等 1 本以上で留め付ける。

鋼製木ねじ等は、その頭部が A L C パネル表面より 7~10 mm 凹むようにねじ込み、この凹部には、合成樹脂エマルジョン系パテ等を隙間なく充填する。

(4) A L C パネルの目地処理

A L C パネル相互の目地部にはシーリング材を充填する。

(5) A L C パネルの表面仕上げ

A L C パネルの目地処理後、薄付け仕上塗材、厚付け仕上塗材または複層仕上塗材を A L C パネル表面に塗り付ける。塗り工程、塗り回数、間隔時間等は JASS 23 吹付工事に準拠する。

仕上塗材の塗布量(所要量)は、合計で 1.5kg/m^2 以上とし、仕上塗材全体に含まれる有機質量の割合は、47% 以下となるようにする。